

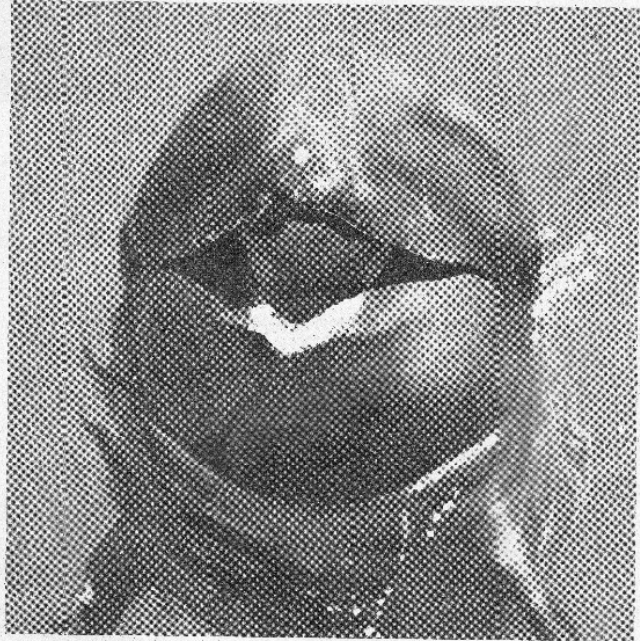
# くじら日記

太地町立博物館から

くじらの博物館で喜ぶハクジラ亜目マイルカ科9種の寿命は40年から60年ほどです。

クジラの一生をたどると、成長段階によって、生活様式が変わっていくのがわかります。例えば、誕生から数年で、栄養源は母乳から魚やイカなどに移行します。性成熟すれば繁殖に参加し、社会性が強くなります。高齢であれば、疾病を患うリスクも高まります。形態的・生理的変化も年齢と密接に関係しています。飼育員が生き物の年齢を知ることができれば、その個体の成長段階がわかり、適切な飼育管理に近づけることができますでしょう。しかし、飼育下の繁殖個体でない限り、正確な年齢を知ることが困難です。数種類のクジラでは、体

## ハクジラ類の年齢



歯の調査で年齢が判明したカズハゴンドウの「レキ」＝太地町

長と年齢の関係性を示す成長曲線が報告されていますが、人と同様、個体によって差があるので、推定に留まります。さかのぼって、2019年（平成31）年2月、野生下で生きていたハクジラ類のカズハゴンドウの雄1頭を搬入し

ました。カズハゴンドウは2017（平成29）年から漁業の捕獲対象となった種類で、飼育鯨類の中では、比較的情報が少ないクジラです。「レキ」と名付けました。カズハゴンドウは筆者の知る限り、成長曲線もありませ

ん。そのため、当時、体長220センチだったレキは、少ない情報を頼りに6歳と推定しました。しかし、同じプールで飼育するクジラに対し攻撃的な一面をもち、ほとんどの歯が抜け落ちていたことなどから、大人あるいは高齢個体の可能性も考えられました。

今年11月、とうとうレキの年齢を知ることができました。搬入した際に6歳と推定しましたが、当時の年齢は7歳で、ほとんど同じであることがわかりました。レキへの理解が深まりました。近年の研究では、DNAメチル化分析という手法により、表皮や血液からも年齢査定できることがわかりつつあります。レキには、抜歯で少し痛い思いをさせてしまいました。飼育するクジラの年齢をより簡便に知ることができると、期待が高まります。

搬入の翌月、実施した健康診断から、2本の歯がぐらぐらしているの気が付きました。歯は、ハクジラ類の年齢を査定する形質として最も有用であるとされています。出生時から周期的に成長層が形成されるため、木の年輪のようには年齢を調べることができません。早速、抜けた2本を抜歯し、研究機関に調べてもらうことにしました。歯の年齢査定には、高価で特殊な機器と、熟練した技術、そして養われた目が不可欠です。

（太地町立くじらの博物館 館長 稲森大樹）  
原則第1日曜日に掲載します。

# 成長層形成の歯から推定